



修飾語

しゅうしよく

主語

わたしは、



わたしは、



わたしは、

だれに

おじいちゃんに

手紙を

書きました。

……より、くわしい文になりました。

述語

書きました。

……これは、主語と述語がそろっている文です。でも、この文だけでは、何を

何を

手紙を

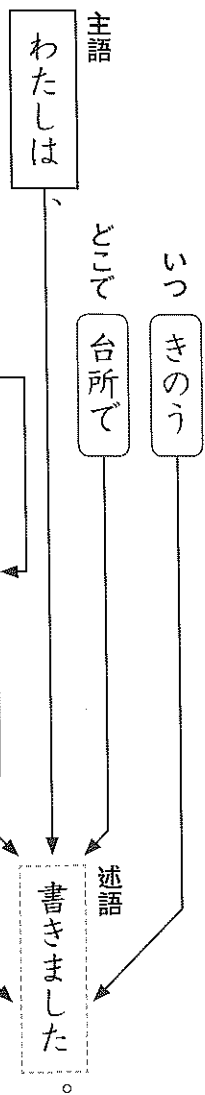
書きました。

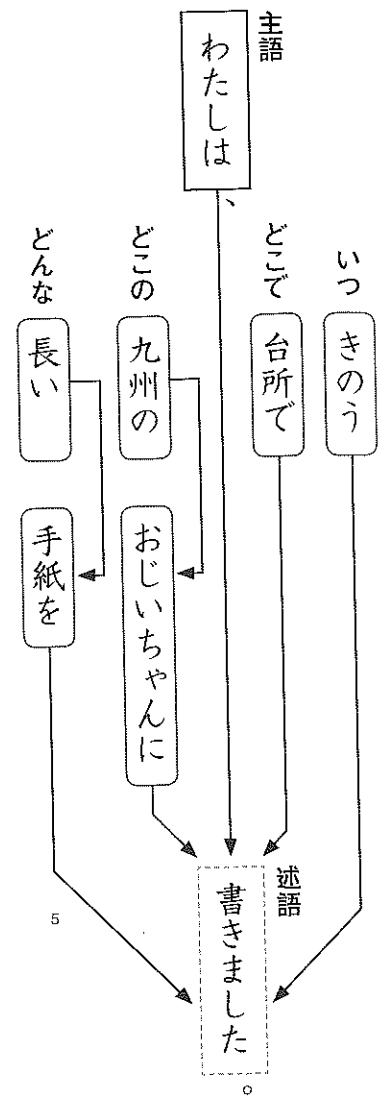
……これで、少し分かるようになりました。次の文ではどうでしょう。

……

三つの文では、同じ主語と述語が使われています。そして、の部分をつけ足すことで、文の意味が定まって、だんだんと分かりやすい文になっています。の、「何を」「だれに」に当たる言葉を、修飾語といいます。

次の文を見てみましょう。





「きのう」「台所で」は、述語の「書きました」に係っています。「九州の」は「おじいちゃん」に、「長い」は「手紙」に係って、それぞれの意味をくわしくしています。これらの「いつ」「どこで」「どこ（だれ・何）の」「どんな」に当たる言葉も、修飾語です。ほかに、「どのくらい」「どのように」に当たる言葉も、修飾語です。



▼次の文に修飾語をくわえて、文をくわしくしましょう。

- 客が、来た。
- 山田君は、打った。
- お父さんが、食べる。

州 シユウ 荷 ニ 美 ヒ 客 キヤク 君 クニ 打 ウツ



九州 シユウ 荷 ニ 美 ヒ 客 キヤク 山田 ヤマダ 君 クニ 打 ウツ

145 ページを見よう



秋の楽しみ

▼「実りの秋」「スポーツの秋」など、「○○の秋」という言い方があります。あなたは、どんな秋にしたいと思えますか。考えて、書きましよう。

月見

月見は、だんごやすすき、里いもなどをそなえて、月をながめて楽しむ行事です。

うさぎ

うさぎ うさぎ

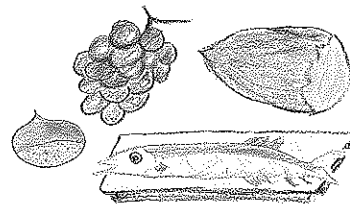
なに見てはねる

十五夜お月さま

見てはねる

月夜

月見かざり



「しよくよくの秋」

ぼくは、しよくよくの秋にしたいと思います。

さつまいもやくり、さんま、ぶどうなど、秋には、おいしい食べ物がたくさんあるからです。

●後のち ●中シユウ秋

中秋の名月 いも名月

十五夜（おかしのこよみて、八月十五日の夜）の月。

後の月 くり名月

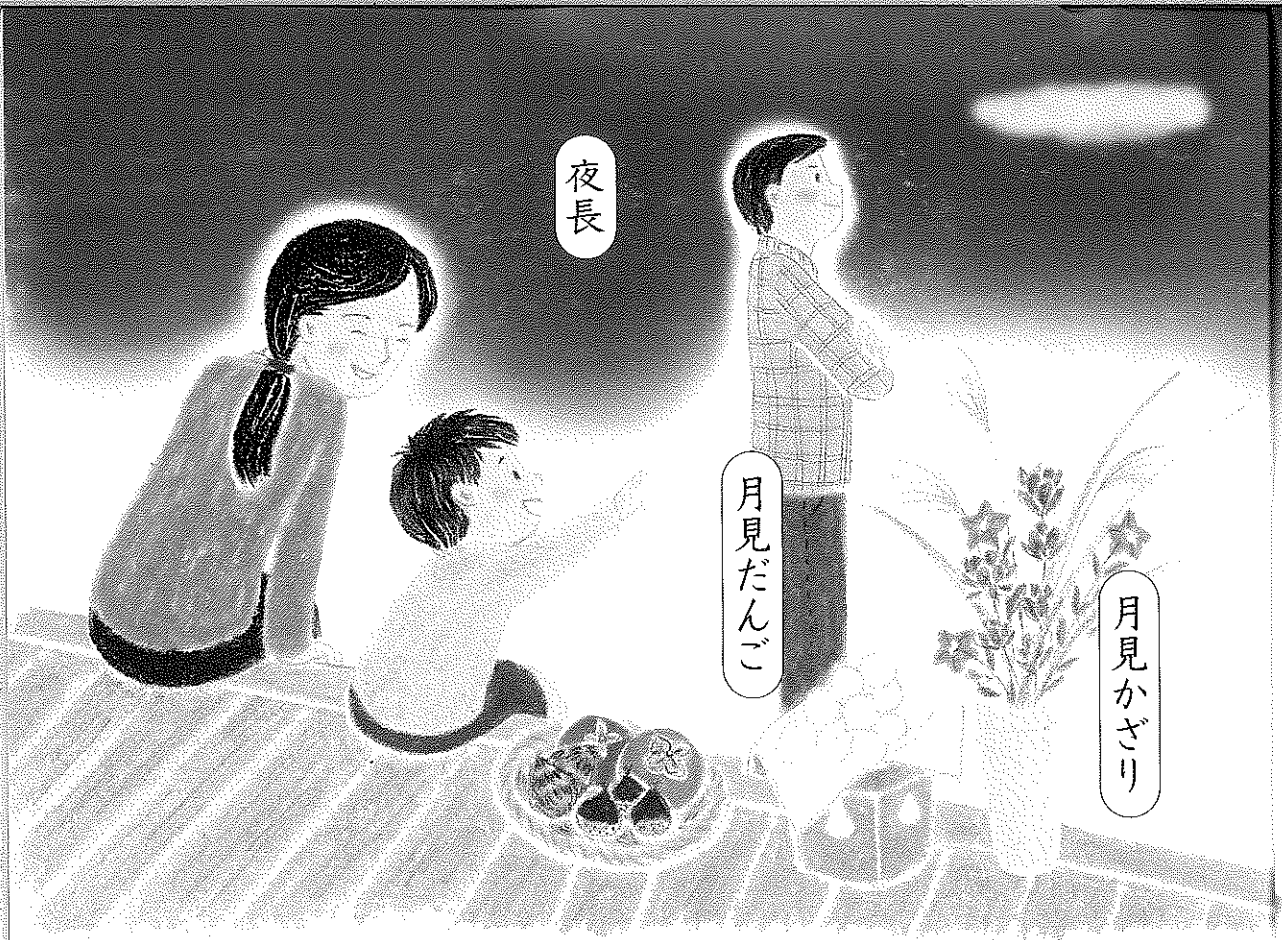
十三夜（おかしのこよみて、九月十三日の夜）の月。

名月を取つてくれろとなく子かな

小林一茶

秋の七草

秋の七草は、秋にさく、代表的な草花です。



夜長

月見だんご

月見かざり

秋の七草 ななくさ

秋の七草は、秋にさく、代表的な草花です。



なでしこ



おみなえし



はぎ



すすき



ふじばかま



ききょう



くず